Meisei University

がある（講演「要旨」参照）。

メナール教授講演：『散文トリスタン物語』に於ける独創性』（Innovations dans *le Roman de Tristan en prose*）（配布資料）

（作成：佐佐木茂美）

I.『トリスタンとイズーの物語』はフランス12世紀の創造した「神話」、「伝説」

筋書き＝1. マルク王（コルヌアーユ）、トリスタン（マルクの甥）、イズー（アイルランドの王女、マルクの妃）2. 魔法の飲料（嫁ぐ娘イズーのためにマルクとの結婚の持続を念じて用意される）3. イズーと使者として迎えにいったトリスタンとがそれを飲み干す、4. 魔術による拘束から永遠の愛の概念が生まれる、5. マルクとイズーの結婚、叔父と甥の軋轢、6. 恋人たちの裏切り、7. トリスタンによるイズーの略奪、8. 恋人たちの死。トリスタンとイズーの恋の物語、この人間の“情念”のパターンは“愛”と“死”の形式でありヨーロッパの文化に深く根差す

II. 日本での「トリスタンとイズー神話（伝説）」の受容

1. ドイツの詩人　リヒャルト・ワグナー（Richard Wagner）（1813-1883）の『トリスタンとイゾルデ』（*Tristan et Isolde*）（1857-1859）はまずフランス語で発表され、演奏された。

2. ジョセフ・ベディエ（JOSÉPH BÉDIER）（1864-1938）フランス中世学者の新版『トリスタン・イズー物語』（*LE ROMAN DE TRISTAN ET ISEUT*）（1890）で特に一般に知られることとなる。

2. は、1953年から文庫本入りし、版を重ね日本での受容に関してはとくに重要。（訳、佐藤輝夫、岩波書店）

III. 12世紀の『トリスタンとイズー物語』（韻文）

日本では（上記（II. 1. 2.））19世紀の産物との誤解があるが、12世紀の創造。

3. ベルール（Béroul）フランス語による作品（1170-1180年）の断片（4485行が残る）

4. トマ・ダングルテール（Thomas d'Angleterre）、フランスの詩人による制作（1172-1176の間）。残存断片詩行3146行。（上記1. はこの系統を引く）

IV. 13世紀の『トリスタン物語』（散文）

5.『散文トリスタン物語』（*Le Roman de Tristan en prose*）

III. 3. 4.（上記）は書き換えられ、詩型式からフランス語による散文の形式をとった本書がメナール教授の講演の主題である。まずイズーの名が消える事に注意。物語は語り継がれて拡まり、改変をきたす。本書では“恋人”トリスタンから“騎士”トリスタンの一生とその運命に人々が熱狂する事になる時代の産物である。『ランスロ』、『聖杯の探索』、『アーサーの死』などを組込んだ長編ロマンス……もともと「フランス語」の意味……となる。

V. メナール教授の指導による校訂本の刊行

「流布本」（「最も広く読まれた」）が1987から1997年までの10年をかけ、9巻が刊行さ

NII-Electronic Library Service

Meisei University

れた（ウイーン国立図書館蔵、2542による）。それまでは韻文の『トリスタンとイズー物語』に比べてはるかに長大な『散文トリスタン物語』は手書き写本のままで研究は進んでいなかった。

VI. キー・ワード解説

「洗練の愛」(fin'amor) とは？　1)「最高度に純化された」(fin)、精神や感情の高揚を目指し、2) 対異性間の恋愛感情の典型（12世紀になって初めて対異性間の感情に価値を見いだす、ようになる)、(「ロメオとジュリエット」よりも400年は古い事に注意)、3) 貴族、王族の登場人物を特徴とする、4) 女性が既婚者……王妃……である事が多い、5) フランスから発信された1)、2)、3)、4) のメッセージはヨーロッパ全域へと広まる。(「物語」(roman) ＝「フランス語」(roman)。ここから英語の「ロマンス」(romance) が出る)。

NII-Electronic Library Service